研究ノート

長島愛生園を訪れた人々－平成 16 年から平成 20 年まで－

People who visited National Sanatorium Nagashima-Aiseien: from 2004 to 2008

山根（吉長）　智恵[1)]

Chie Yamane-Yoshinaga

キーワード：ハンセン病、らい予防法違憲国家賠償請求訴訟、言語接触、言語生活
Keywords：Hansen's disease, Leprosy Prevention Law, language contact, language behavior

1. はじめに[(1)]

日本におけるハンセン病患者[(2)]は、政府が施行した 1907（明治 40）年の「癩予防に関する件」という法律により、療養所への収容・隔離を余儀なくされることになった。戦後の特効薬の出現により、ハンセン病は治療可能な病へと変わったが、1953（昭和 28）年に成立した「らい予防法」は、実質的には療養所への強制収容に近いものであった。しかし、戦前から療養所を訪問する人はおり、1958（昭和 33）年からは、無菌の者はバスレク（バス旅行）で島外に出ることも許されるようになり、また社会復帰も可能となった。さらに、1988（昭和 63）年には悲願の「邑久長島大橋」が開通し、長島愛生園（以下愛生園と記す）・邑久光明園（以下光明園と記す）という 2 つの療養所を持つ長島は、初めて本土と結ばれることになり、車があれば時間を気にせず島外に出られるようになる。

そして、ついに 1996（平成 8）年 4 月 1 日、「らい予防法廃止に関する法律」が施行され、1998（平成 10）年 7 月 31 日に、熊本県にある療養所・菊池恵楓園、鹿児島県にある療養所・星塚敬愛園の入所者 13 人が「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」を熊本地方裁判所に起こす。愛生園の入所者も、1999（平成 11）年 9 月 27 日に岡山地方裁判所に提訴することで、それに続くこととなった。この訴訟に関しては 2001（平成 13）年 5 月 11 日に熊本地方裁判所で原告が勝訴し、5 月 23 日には政府が控訴を断念、5 月 25 日に熊本

1) 山陽学園大学総合人間学部言語文化学科

地裁判決が確定することで、日本政府の謝罪につながっていく。そのような中、2003（平成 15）年、熊本県黒川温泉のホテルがハンセン病回復者の宿泊を拒否するという出来事が起こるものの、2005（平成 17）年 3 月 14 日には東京の都道府県会館で、厚生労働省主宰による第 1 回ハンセン病問題に関するシンポジウムが開催される。2008（平成 20）年 6 月 18 日には、ハンセン病の患者であった者の福祉の増進、名誉の回復等のための措置を講ずることにより、ハンセン病問題の解決の促進を図るため、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律（ハンセン病問題基本法）」が公布、2009（平成 21）年 4 月 1 日に施行された。

筆者らの研究課題である「ハンセン病療養所入所者の言語生活」は、隔離された中で生活を送ってきた入所者の言語生活について考察するために、既に収集した愛生園・光明園の入所者に対するインタビュー談話を現在分析している段階である。しかし、拙稿（2014、2015、2016、2017、2021、2022）でも触れたように、戦前からこれらの療養所には訪問者がおり、言語接触という観点からは、訪問者との接触状況についても調査しておく必要がある。本稿では、2004（平成 16）年から 2009（平成 21）年までの園誌『愛生』に記された訪問者を分析することで、これまでの拙稿に続き、「らい予防法廃止に関する法律」施行後、「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」の原告勝訴後の状況について考えてみたい。

2. 2004（平成 16）年から 2008（平成 20）年までの状況

ハンセン病が不治の病ではなくなり、1988（昭和 63）年に邑久長島大橋が開通、また「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」の勝訴でマスコミに取り上げられたこともあり、愛生園への訪問者は確実に増えていった。2003（平成 15）年 8 月 8 日に開館した歴史館は、2004（平成 16）年 4 月 20 日に 2 階がオープンしたこともあり、2006（平成 18）年 11 月 29 日には 3 万人を達成した。2008（平成 20）年 6 月 20 日には 2 階に第 2 映像室が設置され、リニューアルオープンしている。また、2005（平成 17）年には船越仮橋が開通したことで、同年 3 月 23 日からは路線バスが福祉課前まで乗り入れ可能になった。2006（平成 18）年 5 月 11 日には、船越橋の完成渡り初めが行われている。

2005（平成 17）年 7 月 4 日には、開園 75 周年記念として第 30 回長島納涼祭りが実施された。この夏祭りは毎年実施され、2008（平成 20）年 7 月 31 日に午後 6 時から 9 時まで行われた第 33 回邑久長島大橋開通 20 周年記念長島納涼夏祭りには、約 2500 人が参加している。その他、2005（平成 17）年 7 月 29 日には火葬場法要が、2006（平成 18）年 7 月 26 日には火葬場跡地公園法要が、2006（平成 18）年 9 月 13 日には地蔵塚完成式が、2006（平成 18）年 10 月 3 日には水子地蔵慰霊式が、2008（平成 20）年 5 月 9 日には邑久長島大橋開通 20 周年記念式典が行われた。2007（平成 19）年 6 月 15 日から 21 日までは、黒井山・ゆうゆう館で、総合展示会「長島からの風」も開催され、園外で愛生園のことを知ってもらう機会も提供された。

さらに園外に出ることが容易になったことは、自治会長や生活委員長が中越地震募金やスマトラ島沖地震募金を NHK 岡山放送局に届けることを容易にした。2006（平成 18）年 5 月 19 日に「らい予防法」廃止 10 周年、熊本判決 5 周年の記念集会が東京の虎ノ門パストラルホテルで開催された折には、自治会長、副会長、生活委員長が出向いた。この頃しばしば岡山市の三光荘で行われた岡山県ハンセン病資料調査委員会、ハンセン病問題対

策合同委員会にも愛生園から何人かが出向いている。また、児童・生徒が愛生園を訪問するだけでなく、津山市立西小学校、赤穂市立赤穂中学校、津山市立北稜中学校、総社市立総社中学校、総社市立昭和中学校に自治会役員が出向いて講演も行っており、2008（平成 20）年 7 月 27 日には、岡山法務局の主催による「ハンセン病に関する夏休み　親と子のシンポジウム」が、山陽新聞社大ホールで実施されている。

もちろんこれまで行われていたバスレク（バス旅行）も引き続き実施された。一般、入所している各センター、クラブ主催（例：バドミントンクラブ、卓球クラブ、陶芸クラブ、フォトクラブ、ゲートボール愛好会、囲碁会、猛虎会、生花会）、自治会主催、宗教団体主催（例：浄土真宗）等があり、県内では一本松・黒井山・ドイツの森・ＲＳＫバラ園・後楽園・総社・奥津・湯郷・鷲羽山・最上稲荷、県外では赤穂・小豆島・栗林公園・香川・福山バラ園・宮島・淡路・姫路・宝塚・神戸・京都・大阪等、四国地方・中国地方・関西地方を中心とした旅行を楽しむことにつながった。里帰り(3)も引き続いて実施され、最も多かった徳島県の 6 回を始め、山口県、島根県、三重県、愛媛県の 5 回、愛知県、福岡県、大阪府の 4 回、奈良県、兵庫県、福井県の 3 回、他に新潟県、岐阜県、山梨県、鳥取県、広島県、高知県、滋賀県、遠くは鹿児島県、北海道にも帰る機会があった。また、愛生園で医師として働いた小川正子の出身地、山梨県笛吹市春日居町を 2005（平成 17）年 5 月 18 日に訪れて墓参りをした入所者や、プロ野球元監督の野村克也氏の夫人が招待した楽天対阪神のオープン戦を、マスカット球場で観戦した入所者もいる。

その他、入所者に関する記念すべきこととしては、山陽新聞社「読者の写真コンテスト」で、愛生園フォトクラブに入会している本田勝昌氏が 2004（平成 16）年に年間最優秀賞を受賞したこと、長年ハーモニカバンド「青い鳥楽団」で活躍した近藤宏一氏が 2007（平成 19）年にウェルズリー・ベイリー賞を受賞したこと、岡山県内各地のスポーツを通じての文化交流、障がい者に優しいスポーツの振興に努力したことから、2008（平成 20）年 2 月 22 日に上原糸枝氏が「裳掛地区を明るくする会」から特別表彰を受けたことがある。上原氏は、2007（平成 19）年 11 月 11 日に行われた第 3 回瀬戸内市長杯グラウンドゴルフ大会女子の部で初優勝し、1 ラウンドに 3 ホールインワンという快挙によって、日本グラウンドゴルフ協会からダイヤモンド賞も受賞した。近藤氏は、6 月 5 日にスイスで開催された表彰式に出席するため岡山空港を飛び立ち、韓国のソウル経由でチューリッヒに到着し、そこから電車で表彰式会場のトゥーン市に向かっている。また、自治会も岡山県教育庁さわやか教育賞を受賞し、2008（平成 20）年 3 月 14 日に岡山県立図書館に出向いている。

しかし、喜ばしいことのみではなく、2004（平成 16）年 8 月 30 日の台風 16 号の直撃に伴う暴風・集中豪雨は満潮と重なり、大シケ・高潮による被害は園全体に及んだ。福祉棟西側の小屋は倒壊し、官舎地区海岸沿いの道路も崩壊した。また、日本国内では高齢化が進んだが、愛生園も例外ではなく、2004（平成 16）年には園の将来を考える将来構想委員会が設置された。2006（平成 18）年 5 月 1 日現在の入所者数・平均年齢は男性 245 名、女性 179 名、平均年齢は 78.6 歳である。将来を考えるという点においては行政も同様で、効率的かつ安定的な行財政運営がより一層可能となるとして、2004（平成 16）年 11 月 1 日からは邑久町・牛窓町・長船町が合併し、瀬戸内市となったことから、愛生園の住所も変更された。

3．訪問者の在住地域

それでは、訪問者はどのような地域から愛生園に足を運んだのであろうか。訪問者を在住地域別にまとめたものが、以下の表１[4]である。

ここから、愛生園の所在地である岡山県からの訪問者が 1,470、53.2％と、全体の 5 割強を占めていることがわかる。これは、山根（2017）でも触れたが、来園者に岡山大学や川崎病院等からの非常勤医師や鍼灸師名を挙げるようになり、それらの人々を岡山県からの訪問者としていることが影響していると考えられる。しかし、拙稿の 1986（昭和 61）年から 1990（平成 2）年までの割合 69.5％、1991（平成 3）年から 1998（平成 10）年までの割合 64.3％、1999（平成 11）年から 2003（平成 15）年までの割合 65.3％と比較すると 10％以上減少している。これに対して近畿地方からの訪問者は 1986（昭和 61）年から 1990（平成 2）年までが 9.1％、1991（平成 3）年から 1998（平成 10）年までが 15.5％、1999（平成 11）年から 2003（平成 15）年までが 12.6％と、特に 1991 年からの割合が高くなっている。また、1986（昭和 61）年から 2003（平成 15）年までの中国地方の 3.0％～8.3％、中部地方の 2.7％～3.0％、関東地方の 1.6％～2.8％、四国地方の 1.4％～1.8％、海外の 0.4％～1.7％、九州・沖縄地方の 1.0％～1.5％、東北地方の 0.1％～0.3％、北海道地方の 0.1％～0.2％と比較しても、近畿地方からの訪問者の割合が高いことが見て取れる。これは、宗教関係者のうち近畿地方から来園する人がいることも一因であろう。

また、今回分析した 2004（平成 16）年から 2008（平成 20）年においては、近畿地方だけでなく、中国地方が 12.7％、四国地方が 2.3％と、これらの地方からの訪問者も増加している。ここから、愛生園の所在地である岡山に近い地方からが訪問しやすいことが窺える。これに対して、海外からの訪問者の割合は 0.2％と、1999（平成 11）年から 2003（平成 15）年までの 0.4％より低くなっている。これは次章の訪問目的とも関係するが、キリスト教の外国人神父・牧師の氏名が明記されていないことが一因である。ただタイからは、好善社[5]の姉妹団体チャンタミット社[6]からの訪問者もあり、韓国・台湾のハンセン病療養所、小鹿島更生園・楽生院（楽生療養院）からも原告・弁護団が訪問している。

ここから、言語接触という観点からは、訪問者の半数以上が岡山県からで、夏祭りにも地元住民が訪れていることから、岡山方言に触れることが最も多かったと考えられる。また、近畿・中国・四国地方からの訪問者の割合も合計で 4 割ほどを占めることから、これらの方言も耳にすることがあったであろう。バスレクでの訪問先も岡山県内及び近畿・中国・四国地方が多かったことからも、園内だけでなく園外でもこれらの地方の方言に触れる機会は多かったことが推察される。ただし、里帰りでこれら以外の故郷の方言に触れる機会があった入所者もいたであろうし、小鹿島更生園・楽生院（楽生療養院）からの訪問者と交流した入所者は、韓国語や中国語を耳にすることもあったと思われる。また、トゥーン市で表彰を受けた近藤氏については、トゥーン市がスイスの中でもドイツ語圏のため、ドイツ語や英語に触れる機会もあったであろう。

表 1　地域別訪問者数

年	岡山	近畿	関東	四国	九・沖	中国	中部	東北	北海道	海外	その他	合計
2004	324	134	13	15	6	84	13		2		13	604
2005	328	130	10	14	4	71	10			3	13	583
2006	284	129	12	12	2	75	19	1	2	1	10	547
2007	291	135	9	13	2	66	17	2		1	11	547
2008	243	133	9	10	4	53	18			1	11	482
合計	1470	661	53	64	18	349	77	3	4	6	58	2763

注1　「九・沖」：九州の各県及び沖縄
注2　「中国」：岡山県を除く中国4県
注3　「海外」：海外からの訪問者（国内在住の外国人を含む。）
注4　「その他」：在住地域不明
注5　空欄は「訪問者なし」を意味する。表2も同様。

4．訪問者の所属機関・訪問目的

では、訪問者にはどのような職業の人が多く、また訪問目的はどのようなものであったのだろうか。本章では、訪問者の所属機関（職業）または訪問目的を、①学校（幼稚園、小学校、中学校、高校、専門学校、短大・大学の児童・生徒・学生、教職員、退職教員、保護者等）、②宗教団体（神父、牧師、僧、仏教婦人会等）、③ハンセン病療養所・関係機関（療養所の医師・職員・入所者、全療協、笹川財団、好善社、藤楓協会(7)、交流の家(8)、日本 MTL(9)、架け橋 長島・奈良を結ぶ会(10)、はまなすの里(11)、ゆいの会(12)等）、④議員・官公庁職員・委員（厚生労働省の職員、都道府県・市町村の職員、県知事、市長、参議院・衆議院議員、教育委員会、公民館、人権教育推進（委）員(13)、民生委員(14)等）、⑤マスコミ（新聞社・放送局・出版社・映画社の社員等）、⑥短歌・俳句・川柳・詩・詩吟の会（指導者等）、⑦軍（傷痍軍人会等）、⑧医療機関（医師、看護師、事務職員、全医労(15)、民医連(16)、医労連(17)、医療生協(18)等）、⑨慰問（歌手、俳優、舞踊関係者、コールひまわり(19)等）、⑩その他（町内会、婦人会、愛育委員(20)、同和教育推進協議会(21)、人権教育推進連絡会(22)、社会福祉協議会(23)、部落解放同盟(24)、隣保館(25)、福祉運動・みどりの風(26)、共同募金会(27)、赤十字奉仕団(28)、弁護士、フレンズ国際労働キャンプ(29)、岡山県ハンセン病問題関連資料調査委員(30)等）に分け、その数を以下の表 2 にまとめた(31)。

表 2 から見て取れるのは、まず、医療機関関係者が 854、30.9％と最も多いことである。これは前章でも触れたように、非常勤の医師や鍼灸師を来訪者に含めるようになったことが一因であろう。特にハンセン病については、治癒したとしても後遺症が残っている入所者も多い。視力障害、知覚麻痺、発汗障害、運動麻痺、神経痛等である(32)。そのため、耳鼻科に関しては 2004（平成 16）年から 2006（平成 18）年まで岡山大学耳鼻科の堀医師が、眼科に関しては 2004（平成 16）年から 2008（平成 20）年まで川崎病院の江木医師が毎年来園している。これらの医師の他、5 年間毎年頻繁に来園していたのは、大石言語療法士、耳鼻科の大島医師、岡崎鍼灸師である。また、永山医師、古瀬医師、鈴木医師、齋藤医師、増田医師、高田医師、尾崎医師の名前も垣間見える。その他、医療関係者としては、兵庫民医連が 2005（平成 17）年に、岡山県民医連が 2006（平成 18）年～2008（平成 20）年に、岡山県医労連が 2007（平成 19）年に、島根県津田医院関係者が 2005（平

成 17）年に、出雲市民病院関係者が 2008（平成 20）年に来園し、2007（平成 19）年には岡山旭東病院の土居章弘院長による、病院機能評価のための講演会も開催されている。

次に多いのは官公庁からの訪問者で、475、17.2%を占める。関係省庁である厚生労働省の担当者、県庁、市町村の役所関係者、公民館関係者、教育委員会関係者、人権同和教育課の担当者、人権教育推進委員会関係者、民生児童委員等である。特に今回分析した 5 年間については、「その他」とも関係するが、これまでの保健衛生・健康増進関係者ではなく、人権関係の担当者が多く訪れていることに特徴がある。それは「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」で原告側が勝訴し、改めて人権について考える必要性が生まれたからではないだろうか。

またこの 5 年間の特徴の 2 点目として挙げられるのが、元浜貫一県議会議員、秋山長造参議院議員、片山虎之介参議院議員、江田五月参議院議員、熊代昭彦衆議院議員のように、議員の名前が萩原誠司参議院議員以外に見られないことである。複数回名前が見られるのは、2007（平成 19）年を除き毎年来園していた立岡脩二瀬戸内市長のみである。代わって、2004（平成 16）年には坂口力厚生労働大臣、内野淳子岡山県副知事、2005（平成 17）年、2007（平成 19）年には二井関成山口県知事、2006（平成 18）年には厚生労働省白石官房審議官、神田真秋愛知県知事、石井正弘岡山県知事、2008（平成 20）年には仁坂善伸和歌山県知事、荒井正吾奈良県知事、島根県溝口善兵衛知事と、省庁・県庁のトップクラスが来園し、水子地蔵慰霊式に参列したり納骨堂に献花をしたりしている。

次に多いのは学校関係者で、397、14.4%で、1986（昭和 61）年から 1990（平成 2）年まで、1991（平成 3）年から 1998（平成 10）年まで、1999（平成 11）年から 2003（平成 15）年まではいずれも宗教関係者の来園数が学校関係者を上回っていたが、初めて学校関係者の来園数が宗教関係者を上回った。愛生学園（裳掛小・中学校第 2 分校）と関係が深い裳掛小学校については、2005（平成 17）年を除き、毎年来園している。しかし、邑久高校定時制新良田教室が 1987（昭和 62）年 3 月に閉校となったことも一因なのか、邑久高校からの訪問はこの 5 年間は皆無であった。また、これまで訪問回数が多かった六甲学院、啓光学園、関西学院、広島女学院、愛真高校、盈進高校からの訪問も皆無であった。この 5 年間、毎年来園したのは、岡山市立石井小学校、京都の一燈園中学校、川崎医科大学、吉備国際大学、岡山大学のみである。代わって県外からの訪問者が多く、中国 4 県、四国 4 県、近畿 7 県すべての県から訪れている。これらの地方より遠方の来園については、愛知県内の中・高校生（引率教員あり）、愛知県に複数のキャンパスを持つ日本福祉大学、愛知県江南市にある愛知江南短期大学、東京にある津田塾大学、渋谷区医師会附属看護学校、福岡県北九州市水光学院宗像看護専門学校の記載が見られる。

宗教関係者については、学校関係者よりは少なくなったものの、248、9.0%を占める。これは葬儀、宗教行事催行が主な目的であるが、これまで多かったキリスト教関係者は 8、3.2%に過ぎず、カルメラというシスター名を持ち毎年来園していた稲光千賀子氏についても名前が挙がっていない。これに対して浄土真宗関係は、真宗兵庫教区の松村彰道師の名前しか見られないものの、101、40.7%を占めている。浄土真宗以外で多いのは月例法要が行われた仏立宗の 47、19.0%、定例布教が行われた日蓮宗の 36、14.5%である。また、松村彰導師以外に名前が見られるのは臨済宗の神戸・祥福寺の河野太通師で、2007（平成 19）年を除き毎年来園し、講話も行っている。

療養所関係については、沖縄県にある愛楽園、香川県にある大島青松園、熊本県にある菊池恵楓園、静岡県にある神山復生病院、韓国にある小鹿島更生園、台湾にある楽生院、全療協、藤楓協会、日本財団等から来園している。これらの中で5年間のうち4年来園しているのが全療協関係者と藤楓協会関係者だが、藤楓協会については、本部のある東京からではなく、島根県から5年のうち3年来園しているのが興味深い。また日本財団からは、会長の笹川陽平氏が邑久長島大橋開通20周年記念式典のために来園し、納骨堂に献花し、式典後は光明園で「ハンセン病と人権」と題した講演を行っている。さらにこの5年間は様々な県でハンセン病について考える機会が設けられたことから、交流の家、日本MTL、架け橋 長島・奈良を結ぶ会のようにこれまで活動してきた団体だけでなく、新たに秋田県ハンセン病援護協会、大阪府和泉市ハンセン病問題を考える会、徳島県ハンセン病援護協会、徳島県ハンセン病支援協会、鳥取県ハンセン病とともに歩む会、ハンセン病問題ふるさとネットワーク富山、はまなすの里、ゆいの会の関係者が来園している。

上記以外で訪問回数が増加しているのは、やはり人権や福祉に関する協議会や連絡会である。団体によって名称が微妙に異なっているが、人権教育推進連絡会、人権推進連絡会、人権教育研究会、人権啓発推進委員会、人権啓発推進協議会、人権推進協議会、人権教育推進協議会、人権教育啓発推進センター、人権問題協議会、人権サークル、社会福祉協議会、総合福祉協会、社会福祉施設連合会、福祉人権推進センター、同和教育推進協議会、同和教育研究会、同和教育振興会、同和教育研究協議会、部落解放運動連合会、部落解放同盟、部落解放同盟協議会、部落解放人権研究会等から関係者が来園している。それ以外で毎年来園しているのは、婦人会・婦人連合会、愛育委員会、共同募金会、社会福祉法人 ヒューマンライツ福祉協会、隣保館、山陽映画社（マスコミ）、蒜山もちもち村（慰問）、高知よさこいの関係者（慰問）、コールひまわり（慰問）、弁護士である。また、5年のうち4年来園しているのはフレンズ国際労働キャンプ、赤十字・赤十字奉仕団の関係者、岡山県ハンセン病問題関連資料調査委員、ハープ奏者山根ひろみ氏（慰問）、5年のうち3年来園しているのは福祉運動・みどりの風、社会福祉法人菜の花会の関係者である。マスコミ・慰問を除き、こういった団体関係者を表の「その他」に含めているので、「その他」の割合も高くなっている。

また、この5年間で有名な来園者としては、2004（平成16）年1月9日に来園した神谷美恵子氏の次男でストロー笛奏者の神谷徹氏（慰問）、2004（平成16）年4月1日に来園した女優の竹下景子氏（その他）、2008（平成20）年8月8日に来園した歌手の米良美一氏（慰問）がいる。神谷氏と米良氏はいずれもコンサートを開催し、特に米良氏は映画「もののけ姫」で一世を風靡した美声が園内に響き渡った。

しかし、上記以上に特筆すべきことは、天皇皇后両陛下が第60回国民体育大会に御臨場、あわせて地方事情を視察されるため、2005（平成17）年10月21日から10月24日まで岡山県に行幸啓された際、10月23日に来園され、納骨堂で献花後、愛生会館で入所者と懇談されたことである。

こういった喜ばしいこともあったが、これまで写真の審査員を務めた岡山市在住の緑川洋一氏、川柳の選者である岡山市在住の大森風来子氏の名前が見られなくなったのは残念なことであると言える。

これらの来園者を言語接触という観点から見ていくと、診察時の医師との接触、県知事

との会話時の接触、人権団体の関係者との会話時の接触、ボランティア団体との会話時の接触等、会話を交えての交流が行われたことが窺える。また、天皇皇后両陛下との懇談の機会もあったことから、その時間がわずかだったとは言え、言葉を交わす機会はあったと考えられる。

表２　所属機関・目的別訪問者数

年	学校	宗教	療養所	官公庁	ﾏｽｺﾐ	短歌	軍	医療	皇室	慰問	その他	合計
2004	66	61	9	120	2		1	199		10	136	604
2005	82	55	15	74	1			213	1	7	135	583
2006	88	48	14	90	12			159		10	126	547
2007	79	48	10	92	5			162		13	138	547
2008	82	36	10	99	1			121		11	122	482
合計	397	248	58	475	21		1	854	1	51	657	2763

5. 山陽女子中学校・高等学校（現山陽学園中学校・高等学校）との関係[33]

山陽学園と愛生園とは、上代淑校長時代の 1936（昭和 11）年 10 月に、山陽高等女学校創立 50 周年記念事業の一環として山陽高女寮を寄贈したあたりから深まる。関係はその後も続き、山陽女子高校関係者はこの 5 年の間も愛生園を訪れている。特に放送部が 1994（平成６）年、第 41 回 NHK 杯全国高校放送コンテストラジオ番組部門で入所者の谷川秋夫氏の歌会始の件を取り上げ、優勝を飾ったことから、その後も谷川氏との交流は続いていた。2005（平成 17）年 11 月 10 日に山陽女子高校に招待されて「私の道」の演題で講演を行った谷川氏は、2006（平成 18）年 3 月号の『愛生』にその様子を 42 首で詠っている。その中から 8 首を以下に記す。

車は早山陽女子高の門潜り徐行しながら回りて止まる
男教諭に車椅子をば押されつつこの校庭の広きを思ふ
校長先生のわれを紹介します言葉一語一語の温かくして
昭和 13 年愛生園に来てよりの苦しみし事次つぎ語る
違憲国家賠償訴訟勝訴してやっと人間らしき生活
生徒諸君とにかく愛生園に来てわれらの現状を確と見給へ
わが講演訥訥ながら終りたり一斉に大拍手浴びたり
ふるさとに続いて校歌の合唱を聴きをり涙頬伝ふなり

その後、2006（平成 18）年 7 月 25 日には教員 1 名が記念植樹の打ち合わせのために愛生園に出かけ、2006（平成 18）年 8 月 30 日には山陽学園創立 120 周年記念として、オリーブ 2 本を植樹している。その様子は『愛生』の 2006（平成 18）年 11・12 月号に写真が、『愛生』2007（平成 19）年 1 月号に谷川氏の短歌と文章が掲載されている。その短歌１首と、谷川氏の文章の一部を引用しながら以下に記す。

オリーブの植樹の式に列なりて　御挨拶聴きつつ豊かなるもの

オリーブの植樹式は、朝 10 時から園の大会議室に学園の教員・生徒ら 90 人、谷川氏を

含む園の職員・入所者 10 人余が集い、梶谷山陽学園理事長、藤田愛生園園長、中尾自治会副会長が挨拶を行い、愛生園の附属看護学校前の広庭に既に植えられていた 2 メートル以上の若木の根の方に十数人の生徒が土をかけた。樹下の黒っぽい約 1 メートルの柱には、白字で「学校法人山陽学園創立 120 周年を記念し、人権を尊重する平和で豊かな世界の実現、並びに長島愛生園と本学園の友好を願って、オリーブを植樹する」と書かれていた。次いで記念樹の歌「同じき学びに友つどひて　植ゑつるこの樹は学び終へし　めでたきこの日の忘れ形見　繁れよ栄えよももちとせも　降る雨吹く風こころしてよ　我等が植ゑにし苗はよわし」の合唱が始まり、歌声は島の空に響き渡った。その後、山陽女子高校関係者は納骨堂に参拝し、千羽鶴と花を供えて帰って行かれた。

谷川氏はオリーブの植樹のことを以下の 10 首の短歌にもし、その短歌は 2007（平成 19）年 4 月号の『愛生』に掲載されている。

山陽学園創立 120 周年記念にオリーブを植樹しましぬ島に
植樹式に学園よりは 90 人園より 10 人われも招かる
梶谷理事長藤田園長のご挨拶短きながら心こもりて
広庭にオリーブ 2 本植ゑてあり何れも高さ 2 メートル以上
その樹下に柱立ちゐて書きあるとふ今日の年月日山陽学園と
司会者の指示に従ひその根方に土次つぎとかけらるるなり
土かけ終り植樹の歌の合唱の声は島の空にひびかふ
期せずして法師蝉幾つ鳴き立つる今日のこの式祝ふが如く
友好のオリーブの樹は年毎に成長しわれらを慰めくれむ
オリーブの黒褐色の実の数多つける日楽しみわれは生きなむ

山陽女子高校との交流はこれだけでなく、2008（平成 20）年 9 月 21 日に西大寺市民会館で行われた「人権フォーラム 2008 沖縄からのメッセージ」のフィナーレで演奏された近藤宏一氏のハーモニカに合わせて、生徒が大合唱を披露している。また、2006（平成 18）年 1 月 24 日には中島教諭が、2008（平成 20）年 12 月 22 日には生徒代表 2 人と教諭 1 人が訪問しており、2007（平成 19）年 1 月には 14,000 円を、2007（平成 19）年 12 月には 12,000 円を山陽女子中学・高等学校生徒会が寄付している。

6. まとめと今後の課題

本稿では、園誌『愛生』を基に、2004（平成 16）年から 2008（平成 20）年までの訪問者と愛生園で暮らす入所者との言語接触の可能性について、5 年間の状況、来園者の在住地域、来園者の目的の観点から見ていった。

その結果、療養所内の交流では岡山方言が主、近畿・中国・四国地方の方言が従だったとしても、架橋、「らい予防法」廃止、そして「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」の原告勝訴により、療養所の外に出る機会が増え、様々な方言や外国語に触れる可能性がさらに増加したと言える。

今後は、2009（平成 21）年以降の『愛生』の分析を行い、訪問者との言語接触の可能性の面から引き続き考察を行うとともに、インタビュー調査の結果を分析することで、イ

ンタビューデータと文献データの両面から、入所者の言語生活を明らかにしていきたい。

付記
　本稿は、科学研究費（挑戦萌芽）「ハンセン病入所者の言語生活」（26580085）の研究成果（継続研究）の一部である。

注
(1) 1 章の一部は、拙稿（2017、2021、2022）にも記されている。
(2)「ハンセン病」は、1996（平成 8）年の「らい予防法廃止に関する法律」施行以前は「らい病」と呼ばれていた。本稿では、その「らい」の表記に関して、法案等でひらがな表記をしているものについてはひらがなで、漢字表記にしているものについては漢字で表記している。
(3)おもに各県がバス代等を負担し、郷土を見学した行事。長島愛生園入園者自治会（1982）pp.171-172 参照。
(4)同日に同地方から来ている場合、複数名であっても「1」と数えていることもある。複数名の居住地域が判明しており、それが異なる場合は、それぞれの居住地域に分けて数えている。なお、本稿執筆段階で居住地域が判明していない者や来園目的が不明な者については「その他」に含めているため、今後の調査で在住地域等が判明した場合、表 1、表 2 の数字に変更が生じる可能性がある。
(5)1877（明治 10）年、アメリカ人宣教師ヤングマン女史と教え子によってボランティア団体として設立された。戦前はハンセン病の私立病院を経営、戦後は国立ハンセン病療養所内の教会堂の建設等を行った。2014（平成 26）年 4 月に公益社団法人の認可を受ける。https://kozensha.org/参照。（2024 年 2 月 3 日閲覧）
(6)ハンセン病を病んだ人々とその家族の真の友となることを目的とし、1987 年 3 月 31 日に好善社の財政援助によって創立された NGO。http://www.kt.rim.or.jp/~kozensha/CONTENTS/bls.htm、https://kozensha.org/activity02.html 参照。（2024 年 2 月 3 日閲覧）
(7)1951（昭和 26）年に死去された貞明皇后の遺金と民間を中心とする募金を基に設立された団体。https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/hansen/kanren/dl/4a16e.pdf 参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(8)奈良市にあるらい復権セミナーセンター。https://mognet.org/fiwc/musubi.html 参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(9)救らい協会。MTL は The mission to Lepers の略。ハンセン病とその家族を支援するキリスト教の団体。
(10)ハンセン病回復者との交流を目的に 1979（昭和 54）年に作られた団体。https://www.pref.nara.jp/secure/229682/250report.pdf 参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(11)北海道出身のハンセン病回復者への訪問活動を主とし、2002（平成 14）年に設立されたボランティア団体。https://leprosy.jp/people/hiranaka/参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(12)ハンセン病療養所入所者の社会復帰を支援するために 2003（平成 15）年 4 月に発足した組織「ハンセンボランティア養成実行委員会」を 2004（平成 16）年 3 月に改称し、入所者との交流やハンセン病問題の普及啓発を行っているボランティア団体。正式名称は「ハンセンボランティアゆいの会」。山陽新聞社編（2017）pp.135-136、https://hansen-yuinokai.com/参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(13)人権問題に関する学習会や講演会の企画・実施への助言を行ったり、学習相談にのったりすることで、

地域住民の人権教育推進に努める委員。
(14)各地域において、ハンセン病の情報を収集したり、患者やその家族の相談に乗ったりした人。本稿では民生児童委員も含めている。https://www2.shakyo.or.jp/zenminjiren/（全国民生委員児童委員連合会）参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(15)全日本国立医療労働組合の略。国立病院機構、国立ハンセン病療養所等の職員で組織される労働組合。http://zen-iro.or.jp/参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(16)全日本民主医療機関連合会の略。日本の医療機関や介護事業所等の連合体。
https://www.min-iren.gr.jp/参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(17)全日本医療労働組合連合会の略。日本の病院、診療所、介護・福祉施設等の労働者が組織する労働組合の連合体。http://irouren.or.jp/参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(18)医療生活協同組合の略。生活協同組合に加入した組合員と医療（医師・歯科医師・看護師等）・介護（介護士・理学療法士等）の専門家が協力して、病院や診療所・介護老人保健施設等を運営している組合。
https://kita.coop/aboutus/about-2 参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(19)岡山県倉敷市で活動を行っている女声合唱団。
(20)在住する市町村のすべての住民にとって、地域が健康で明るく住み良い地域になるよう、行政と協力しながら活動している健康づくりボランティア。
https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/861411_8182634_misc.pdf 参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(21)人の命と人権が守られ尊重される社会の実現を目指して、人権・同和教育について協議したり研修会を企画したりしている会。同和教育研究協議会、同和教育振興会等、「同和」の名称が付いている会が複数あるが、それらはすべて「その他」に含めている。
http://park1.wakwak.com/~dosuikyo/参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(22)人権教育についての研修会・講演会の計画および開催、調査等について協議するための会。人権教育については、人権推進協議会、人権対策協議会、人権教育研究会、人権教育推進協議会、人権教育協議会等、「人権」の名称が付いている会があるが、それらのうち、教育委員会からの委嘱である人権教育推進委員会、人権教育推進員と関係する会、大阪市西成区の陣形啓発推進員関係を除き、すべて「その他」に含めている。ただし、ヒューマインド（大阪府福祉推進人権センター）、人権啓発センター、人権文化センター、人権福祉センターについては、市の管轄が多いので、一部を除き官公庁に含めている。
(23)福祉課題の改善、福祉制度の向上に取り組んでいる会。一般の社会福祉法人も含め、社会福祉関係の機関については、すべて「その他」に含めている。
https://www.shakyo.or.jp/tsuite/jigyo/index.html 参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(24)部落差別の撤廃を目的とした、部落大衆自身による大衆団体。
http://www.hrn.gr.jp/about/、http://www.bll.gr.jp/参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(25)地域社会全体の中で、生活上の各種相談事業や人権課題の解決のための各種事業を総合的に行うことを目的とした団体。https://www.rinpokan.com/rinpokannituite 参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(26) 1997（平成 9）年 10 月に結成された、部落解放のための新しい福祉運動組織。
https://www.jinken-osaka.jp/pdf/news/04/06.pdf 参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(27)法律で認められた社会福祉法人。民間の団体で、赤い羽根のような募金を行うことができる。
https://akaihane-tottori.or.jp/about/outline.html 参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(28)「赤十字のボランティア活動を通じて地域社会に貢献したい」という思いを持った人々により市区町村ごとに組織されたボランティアグループ。

https://www.jrc.or.jp/volunteer-and-youth/volunteer/chiiki/参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(29) Friends International Work Camps。貧困や差別等の社会問題の発生している現場に出かけ、労働という手段を通じて問題の解決を目指していこうとする団体。ハンセン病国立療養所との関わりでは、資料整理や入所者との交流を行っている。
https://mognet.org/fiwc/whatfiwc.html 参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
http://kcl.nick1015.justhpbs.jp/intro2.html 参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(30)岡山県ハンセン病問題関連資料調査委員会の委員。委員会は 2002（平成 14）年 6 月に発足し、関係各所の資料調査を行い、資料集を編集した。資料集の内容は
http://www.hansen-okayama.jp/communication-document.html でも公開されている。
https://archives.pref.okayama.jp/pdf/H26_oshirase_shiryokoukai.pdf 参照。（2024 年 2 月 4 日閲覧）
(31)大学の医学関係の教授、ハンセン病療養所・官公庁に勤務する医師・看護師等が訪問している場合は、「医療機関」ではなく、「学校」「ハンセン病療養所」「官公庁」に含めている。例は少ないが、学生、官公庁の職員が慰問で訪れ、「慰問」と書かれているものでも、「学校」「官公庁」に含めている。また、1986（昭和 61）年から 1990（平成 2）年までに愛生園を訪れた人の分析（拙稿『山陽論叢第 24 巻』pp.75-87）では傷痍軍人会からの訪問者を軍に含めていないが、本稿では戦後 60 年経っても訪問者がいたことを踏まえ、1 回ではあるが軍関係者に含めている。職業や目的がはっきりしない訪問者は「その他」に含めている。なお、今後の調査で所属機関や目的が判明した場合、表 2 の数字に変更が生じる可能性がある。
(32)国立ハンセン病資料館編（2013）『国立ハンセン病資料館常設展示図録 2012』p.102、国立ハンセン病資料館編（2013）『かすかな光をもとめてー療養所の中の盲人たちー』p.43 参照。
(33)太田編（2006）p.41、p.73 学校法人山陽学園編（2016）p.27、渡邊（2020）、山根（2021）p.74 参照。

参考文献・参考 URL

一燈園　https://www.ittoen.or.jp/　（2024 年 2 月 5 日閲覧）
太田健一他編（2006）『山陽学園 120 周年記念誌』学校法人山陽学園
学校法人山陽学園編（2016）『山陽学園 130 年の軌跡』吉備人出版
厚生労働省　「ハンセン病に関する主な出来事」
https://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/01/h0131-5/dekigoto.html
（2024 年 1 月 31 日閲覧）
厚生労働省　「らい予防法の廃止に関する法律（平成 8 年法律第 28 号）」
https://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/kenkou/hansen/hourei/8.html
（2024 年 1 月 31 日閲覧）
厚生労働省　「歴史から学ぶハンセン病とは？」
https://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/01/h0131-5/histry.html
（2024 年 1 月 31 日閲覧）
厚生労働省　「ハンセン病に関する情報ページ」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/hansen/index.html　（2024 年 2 月 4 日閲覧）
国立ハンセン病資料館編（2013）『国立ハンセン病資料館常設展示図録 2012』国立ハンセン病資料館

国立ハンセン病資料館編（2013）『かすかな光をもとめてー療養所の中の盲人たちー』国立ハンセン病資料館
国立ハンセン病資料館「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟判決 20 周年展開催 https://www.nhdm.jp/news/1596/（2024 年 2 月 5 日閲覧）
山陽新聞社編（2017）『語り継ぐハンセン病ー瀬戸内 3 園から』山陽新聞社
山陽放送（2019）『RSK テレビ放送 60 周年　ハンセン病取材 40 年　記者たちが見たもの』山陽放送株式会社
人権フォーラム 2008 沖縄からのメッセージ http://www.hansen-okayama.jp/img/page/communication/communication-document/2008forum.pdf（2024 年 2 月 5 日閲覧）
長島愛生園入園者自治会（1982）『隔絶の里程ー長島愛生園入園者五十年史ー』日本文教出版
長島愛生園歴史館　http://www.aisei-rekishikan.jp/summary.php（2024 年 1 月 31 日閲覧）
ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会・岡山（2011）『長島愛生園将来構想』https://www.city.setouchi.lg.jp/uploaded/attachment/100772.pdf（2024 年 2 月 5 日閲覧）
法務省・文部科学省編『平成 21 年版人権教育・啓発白書　平成 20 年度人権教育及び人権啓発施策』https://dl.ndl.go.jp/view/prepareDownload?itemId=info%3Andljp%2Fpid%2F1163828&contentNo=1（2024 年 2 月 5 日閲覧）
交流（むすび）の家　https://mognet.org/fiwc/musubi.html（2024 年 1 月 31 日閲覧）
モグネット　https://mognet.org（2024 年 1 月 31 日閲覧）
山根（吉長）智恵（2014）「長島愛生園を訪れた人々ー昭和 6 年から昭和 19 年までー」『山陽論叢』第 21 巻
山根（吉長）智恵（2015）「長島愛生園を訪れた人々ー昭和 21 年から昭和 40 年までー」『山陽論叢』第 22 巻
山根（吉長）智恵（2016）「長島愛生園を訪れた人々ー昭和 41 年から昭和 60 年までー」『山陽論叢』第 23 巻
山根（吉長）智恵（2017）「長島愛生園を訪れた人々ー昭和 61 年から平成 2 年までー」『山陽論叢』第 24 巻
山根（吉長）智恵（2021）「長島愛生園を訪れた人々ー平成 3 年から平成 10 年までー」『山陽論叢』第 28 巻
山根（吉長）智恵（2022）「長島愛生園を訪れた人々ー平成 11 年から平成 15 年までー」『山陽論叢』第 29 巻
山根智恵・久木田恵（2016）「ハンセン病療養所入所者の方言受容」『日本語の研究』第 12 巻 4 号　p.202
渡邊雅浩（2020）「コロナ禍下で考えたこと」『山陽スピリットニュース No.21』学校法人山陽学園 広報・山陽スピリット推進室

https://student.sguc.ac.jp/uploads/page/unit/files/0a0d41b4232ddc49f122f42aba57c993.pdf（2024 年 2 月 5 日閲覧）

分析資料

『愛生』愛生日誌・入園者自治会日誌・寄贈金品目録　2004（平成 16）年 7 月号～2009（平成 21）年 4 月号

『愛生　開園 80 周年記念号』2010（平成 22）年 11 月・12 月合併号